

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/株式/インデックス型	
信託期間	無期限（設定日：2021年6月29日）	
運用方針	SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、CRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド (ベビーファンド)	SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド (ベビーファンド)	SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、CRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）への投資を通じて、CRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
分配方針	年1回（毎年7月11日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価損益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を定めず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

運用報告書（全体版）

第2期

（決算日：2023年7月11日）

SBI・V・全米株式 インデックス・ファンド (愛称：SBI・V・全米株式)

追加型投信/海外/株式/インデックス型

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「SBI・V・全米株式インデックス・ファンド(愛称：SBI・V・全米株式)」は、2023年7月11日に第2期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9:00~17:00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<https://www.sbiam.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率	期中 騰落率	期中 騰落率		
(設定日) 2021年6月29日	円 10,000	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 8,102
1期(2022年7月11日)	10,887	0	8.9	10,936	9.4	99.6	87,662
2期(2023年7月11日)	12,865	0	18.2	12,970	18.6	99.5	168,436

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注3) ベンチマークはCRSP US トータル・マーケット・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注5) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率	
(期首) 2022年7月11日	円 10,887	% —	10,936	% —	% 99.6
7月末	11,225	3.1	11,276	3.1	99.7
8月末	11,362	4.4	11,415	4.4	99.7
9月末	10,835	△ 0.5	10,888	△ 0.4	99.6
10月末	11,901	9.3	11,973	9.5	99.7
11月末	11,302	3.8	11,369	4.0	99.3
12月末	10,504	△ 3.5	10,570	△ 3.3	99.2
2023年1月末	10,840	△ 0.4	10,908	△ 0.3	99.4
2月末	11,267	3.5	11,338	3.7	99.5
3月末	11,124	2.2	11,198	2.4	99.6
4月末	11,364	4.4	11,445	4.7	99.5
5月末	12,063	10.8	12,148	11.1	99.5
6月末	13,127	20.6	13,233	21.0	99.1
(期末) 2023年7月11日	12,865	18.2	12,970	18.6	99.5

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマークはCRSP US トータル・マーケット・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注4) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

ベンチマーク：CRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）

CRSP US トータル・マーケット・インデックスとは、米国株式市場の大型株から小型株までを対象とし、投資可能銘柄のほぼ100%をカバーした時価総額加重平均型の株価指数です。なお、CRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）は、CRSP US トータル・マーケット・インデックスをもとに、委託会社が円換算したものです。

■ 当期の運用状況と今後の運用方針（2022年7月12日から2023年7月11日まで）

○ 基準価額等の推移



期 首：10,887円

期 末：12,865円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： 18.2%

(注1) ベンチマークは、CRSP US トータル・マーケット・インデックスを委託会社にて円換算しています。詳細はP1をご参照ください。

(注2) ベンチマークは、期首（2023年7月11日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

(注4) ベンチマークの値は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○ 基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・ 米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化による米国金融政策の緩和への期待
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施されていた中国の行動制限緩和への期待
- ・ 人工知能（AI）関連の半導体需要増への期待によるハイテク株高
- ・ 対円で米ドルが上昇したこと

下落要因

- ・ 米連邦準備制度理事会（FRB）の積極的な政策金利引き上げ
- ・ 英減税計画により財政悪化が懸念されリスク回避の動きが強まったこと
- ・ 米国金融機関の破綻に伴う信用不安によりリスク回避の動きが強まったこと
- ・ 米国債務上限問題によりリスク回避の動きが強まったこと

○投資環境

<米国株式市場>

期初、米国市場を代表するS&P500種指数は3,800台で始まり、中国の景気支援策への期待やハイテク企業の好決算などから7月は上昇しました。しかし8月中旬に4,300台に到達した後、パウエルFRB議長がインフレ抑制に向けて利上げ継続姿勢を強調し、米金利が上昇したことを受けて、10月中旬にかけて3,500台まで下落しました。その後、英減税計画の一部撤回や米CPIの伸び鈍化が好感され、S&P500種指数は11月に4,000近辺まで反発しました。12月には一時的に低下しましたが、2023年1月に雇用統計で賃金の伸び鈍化が確認されるとともに、景気の軟着陸期待も強まったことから、上昇しました。しかし2月に雇用の大幅増加、米CPIの上ぶれや堅調な小売売上高に伴う高インフレ懸念や3月に米国金融機関の破綻に伴う信用不安などにより、S&P500種指数は調整局面に入りましたが、当局の対応などからやや値を戻し、3月は上昇しました。4月から5月末にかけては、レンジ相場が続きました。6月は米債務上限適用停止法案の可決・成立を受けてリスク選好が改善する中、堅調な雇用統計などが好感されて上昇しました。通期ではS&P500種指数は上昇し、4,400台で期末を迎えました。

<外国為替市場>

期初、米ドル円相場は137円台で始まり、金融引き締めを積極化するFRBの動きを受けてドル高・円安傾向が続きました。このような状況下、9月22日に日銀は約24年ぶりの為替介入を実施しました。その後も、米CPIの高止まりにより金融引き締め懸念から米ドルは上昇し10月20日～21日に150円台を付け、為替介入が実施され140円台後半での推移となりました。11月以降、米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げ幅が拡大されるとの見方が後退し、ドル安・円高が進み、2023年1月には米ドル円相場が128円台まで下落しました。3月は堅調な米雇用統計や、米サービス業景気指数の予想を上回る改善などから、ドル高・円安が進展しました。2023年4月から6月末にかけて、FRBによる利上げ継続観測、米債務上限問題を巡る過度な懸念後退、日本銀行の金融政策の現状維持などから、ドル高・円安が進みました。しかしながら、その後、米雇用統計の結果が市場予想を下回ったことや日銀の政策変更の可能性が市場で意識されたことなどからドル安・円高方向へ急速に転じました。通期では、ドル高・円安が進み、141円台で期末を迎えました。

○当ファンドのポートフォリオ

<当ファンド>

ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行いました。

<SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド>

ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、バンガードが運用を行う「バンガード・トータル・ストック・マーケットETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.4%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

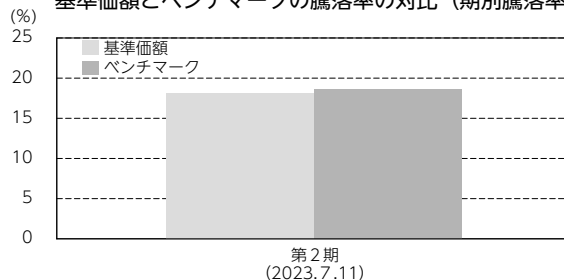
期中における基準価額は、18.2%の上昇となり、ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）」の騰落率である18.6%をおおむね0.4%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

基準価額とベンチマークの騰落率の対比（期別騰落率）



（注）ベンチマークはCRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）です。詳細はP1をご参照ください。

○分配金

当期の収益分配は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第2期
	2022年7月12日～ 2023年7月11日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,865

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行う方針です。また、現金比率を極力抑え連動率を高めていく所存です。

<SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド>

引き続き、「バンガード・トータル・ストック・マーケットETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年7月12日～2023年7月11日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	7 (3) (3) (2)	0.064 (0.024) (0.024) (0.015)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	—	—	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷) (そ の 他)	2 (2) (0) (0) (0)	0.016 (0.014) (0.001) (0.001) (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等 信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	9	0.080	
期中の平均基準価額は、11,409円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

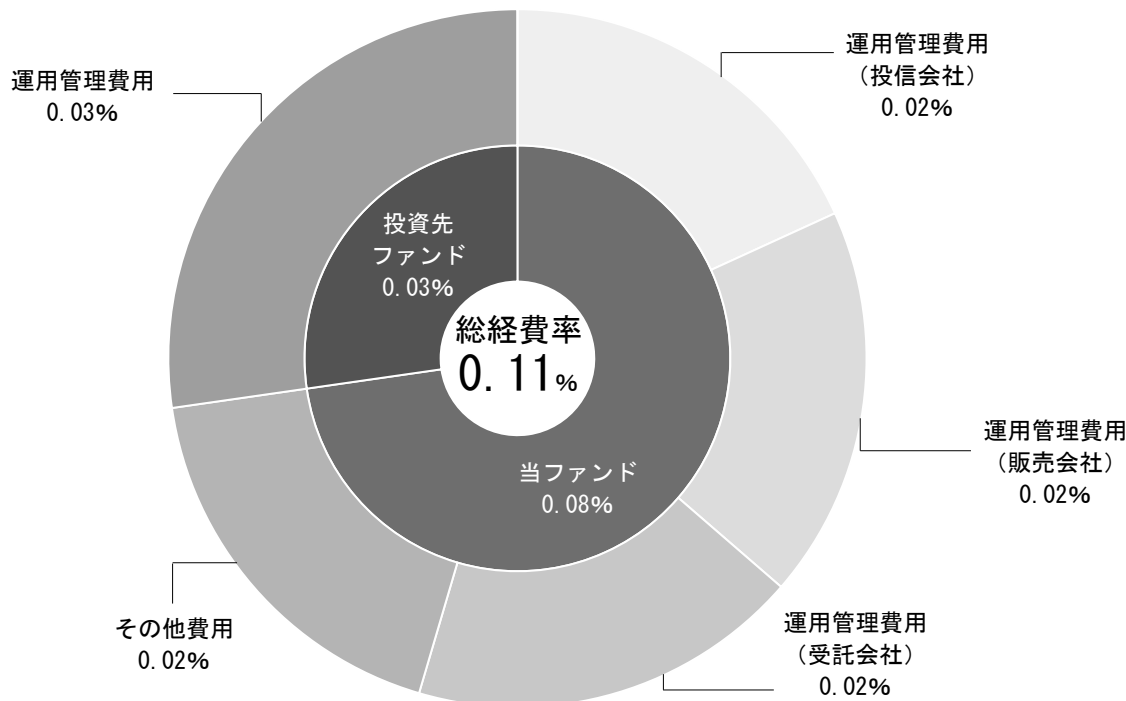
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.11%**です。



総経費率 (①+②)	0.11%
①当ファンドの費用の比率	0.08%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年7月12日～2023年7月11日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド	千口 59,277,396	千円 67,523,420	千口 9,117,113	千円 10,874,520

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年7月12日～2023年7月11日)

利害関係人との取引状況

<SBI・V・全米株式インデックス・ファンド>

該当事項はありません。

<SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
投資信託証券	百万円 68,880	百万円 —	% —	百万円 12,856	百万円 316	% 2.5
為替直物取引	66,704	—	—	12,859	—	—

平均保有割合 96.1%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。
(注) 金額の単位未満は切捨て。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはSBI SECURITIES CO LTD/JAPANです。

○組入資産の明細

(2023年7月11日現在)

親投資信託残高

銘柄名	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド	千口 80,486,661	千口 130,646,944	千円 168,482,299

(注) 単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2023年7月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド	168,482,299	99.8
コール・ローン等、その他	292,394	0.2
投資信託財産総額	168,774,693	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建て純資産(171,691,093千円)の投資信託財産総額(173,013,824千円)に対する比率は99.2%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、7月11日における円換算レートは、1ドル=141.46円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年7月11日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	168,774,693,024円
コール・ローン等	13,549
SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド(評価額)	168,482,299,475
未 収 入 金	292,380,000
(B)負 債	338,416,747
未 払 解 約 金	292,374,998
未 払 信 託 報 酬	45,294,431
そ の 他 未 払 費 用	747,318
(C)純 資 産 総 額(A - B)	168,436,276,277
元 本	130,923,476,529
次 期 繰 越 損 益 金	37,512,799,748
(D)受 益 権 総 口 数	130,923,476,529口
1万口当たり基準価額(C / D)	12,865円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>

(貸借対照表関係)

期首元本額	80,519,795,825円
期中追加設定元本額	76,035,336,641円
期中一部解約元本額	25,631,655,937円

○損益の状況 (2022年7月12日~2023年7月11日)

項 目	当 期
(A)有 価 証 券 売 買 損 益	22,799,578,276円
売 買 損 益	24,275,697,656
売 買 損 益	△ 1,476,119,380
(B)信 託 報 酬 等	△ 81,966,407
(C)当 期 損 益 金(A + B)	22,717,611,869
(D)前 期 繰 越 損 益 金	1,375,210,035
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	13,419,977,844
(配 当 等 相 当 額)	(1,622,762,948)
(売 買 損 益 相 当 額)	(11,797,214,896)
(F) 計 (C + D + E)	37,512,799,748
(G)収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F + G)	37,512,799,748
追 加 信 託 差 損 益 金	13,419,977,844
(配 当 等 相 当 額)	(1,714,642,081)
(売 買 損 益 相 当 額)	(11,705,335,763)
分 配 準 備 積 立 金	24,092,821,904

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,921,186,278円)、費用控除後の有価証券等損益額(20,796,425,591円)、信託約款に規定する収益調整金(13,419,977,844円)および分配準備積立金(1,375,210,035円)より分配対象収益は37,512,799,748円(10,000口当たり2,865円)ですが、当期に分配した金額はありません。

第2期 運用報告書

(決算日 2023年7月11日)

SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンド

受益者のみなさまへ

SBI・V・全米株式インデックス・マザーファンドの第2期（2022年7月12日から2023年7月11日まで）の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは、次の通りです。

運用方針	米国株式市場の動きを捉えることをめざすCRSP US トータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果を目標として運用を行います。
主要投資対象	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 デリバティブの直接利用は行いません。 外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	期中 騰落率		期中 騰落率		
(設定日) 2021年6月29日	円 10,000	% —		% —	% —	百万円 8,102
1期(2022年7月11日)	10,903	9.0	10,936	9.4	99.5	93,558
2期(2023年7月11日)	12,896	18.3	12,970	18.6	99.4	172,667

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークはCRSP USトータル・マーケット・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
		騰落率		騰落率	
(期首) 2022年7月11日	円 10,903	% —		% —	% 99.5
7月末	11,242	3.1	11,276	3.1	99.5
8月末	11,379	4.4	11,415	4.4	99.4
9月末	10,853	△ 0.5	10,888	△ 0.4	99.5
10月末	11,919	9.3	11,973	9.5	99.5
11月末	11,322	3.8	11,369	4.0	98.9
12月末	10,524	△ 3.5	10,570	△ 3.3	98.9
2023年1月末	10,861	△ 0.4	10,908	△ 0.3	99.3
2月末	11,289	3.5	11,338	3.7	99.4
3月末	11,148	2.2	11,198	2.4	99.5
4月末	11,389	4.5	11,445	4.7	99.2
5月末	12,091	10.9	12,148	11.1	99.5
6月末	13,158	20.7	13,233	21.0	99.1
(期末) 2023年7月11日	円 12,896	% 18.3		% 18.6	% 99.4

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマークはCRSP USトータル・マーケット・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

ベンチマーク：CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）

CRSP USトータル・マーケット・インデックスとは、米国株式市場の大型株から小型株までを対象とし、投資可能銘柄のほぼ100%をカバーした時価総額加重平均型の株価指数です。なお、CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）は、CRSP USトータル・マーケット・インデックスをもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2022年7月12日から2023年7月11日まで）

○基準価額等の推移



当マザーファンドの基準価額は期首10,903円から始まったあと、期末には12,896円となりました。期を通じて騰落率は+18.3%となりました。

	期首	期中高値	期中安値	期末
日付	2022/7/11	2023/7/4	2023/1/4	2023/7/11
基準価額 (円)	10,903	13,293	10,323	12,896

○投資環境

<米国株式市場>

期初、米国市場を代表するS&P500種指数は3,800台で始まり、中国の景気支援策への期待やハイテク企業の好決算などから7月は上昇しました。しかし8月中旬に4,300台に到達した後、パウエルFRB議長がインフレ抑制に向けて利上げ継続姿勢を強調し、米金利が上昇したことを受けて、10月中旬にかけて3,500台まで下落しました。その後、英減税計画の一部撤回や米CPIの伸び鈍化が好感され、S&P500種指数は11月に4,000近辺まで反発しました。12月には一時的に低下しましたが、2023年1月に雇用統計で賃金の伸び鈍化が確認されるとともに、景気の軟着陸期待も強まったことから、上昇しました。しかし2月に雇用の大幅増加、米CPIの上ぶれや堅調な小売売上高に伴う高インフレ懸念や3月に米国金融機関の破綻に伴う信用不安などにより、S&P500種指数は調整局面に入りましたが、当局の対応などからやや値を戻し、3月は上昇しました。4月から5月末にかけては、レンジ相場が続きました。6月は米債務上限適用停止法案の可決・成立を受けてリスク選好が改善する中、堅調な雇用統計などが好感されて上昇しました。通期ではS&P500種指数は上昇し、4,400台で期末を迎えました。

<外国為替市場>

期初、米ドル円相場は137円台で始まり、金融引き締めを積極化するFRBの動きを受けてドル高・円安傾向が続きました。このような状況下、9月22日に日銀は約24年ぶりの為替介入を実施しました。その後も、米CPIの高止まりにより金融引き締め懸念から米ドルは上昇し10月20日～21日に150円台を付け、為替介入が実施され140円台後半での推移となりました。11月以降、米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げ幅が拡大されるとの見方が後退し、ドル安・円高が進み、2023年1月には米ドル円相場が128円台まで下落しました。3月は堅調な米雇用統計や、米サービス業景気指数の予想を上回る改善などから、ドル高・円安が進展しました。2023年4月から6月末にかけて、FRBによる利上げ継続観測、米債務上限問題を巡る過度な懸念後退、日本銀行の金融政策の現状維持などから、ドル高・円安が進みました。しかしながら、その後、米雇用統計の結果が市場予想を下回ったことや日銀の政策変更の可能性が市場で意識されたことなどからドル安・円高方向へ急速に転じました。通期では、ドル高・円安が進み、141円台で期末を迎えました。

○当ファンドのポートフォリオ

ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、バンガードが運用を行う「バンガード・トータル・ストック・マーケットETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.4%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

期中における基準価額は、18.3%の上昇となり、ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス（円換算ベース）」の騰落率である18.6%をおおむね0.3%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

○今後の運用方針

引き続き、「バンガード・トータル・ストック・マーケット ETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「CRSP USトータル・マーケット・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2022年7月12日～2023年7月11日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売買委託手数料	円 —	% —	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税	—	—	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用)	2 (2)	0.014 (0.014)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	2	0.014	
期中の平均基準価額は、11,431円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2022年7月12日～2023年7月11日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ		千ドル		千ドル
	Vanguard Total Stock Market ETF	2,504,553	494,043	467,774	94,107
	小 計	2,504,553	494,043	467,774	94,107

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年7月12日～2023年7月11日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
投資信託証券	68,880	—	—	12,856	316	2.5
為替直物取引	66,704	—	—	12,859	—	—

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはSBI SECURITIES CO LTD/JAPANです。

○組入資産の明細

(2023年7月11日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末				
		口 数	口 数	評 価 額		比 率
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
Vanguard Total Stock Market ETF	3,505,510	5,542,289	1,213,705	171,690,832	99.4	
合 計	口数・金額	3,505,510	5,542,289	1,213,705	171,690,832	99.4
	銘柄数<比率>	1	1	—	<99.4%>	

(注1) 円換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。

(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2023年7月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 171,690,832	% 99.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,322,992	0.8
投 資 信 託 財 産 総 額	173,013,824	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建て純資産(171,691,093千円)の投資信託財産総額(173,013,824千円)に対する比率は99.2%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、7月11日における円換算レートは、1ドル=141.46円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年7月11日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	173,013,824,366円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	1,322,992,264
投資信託受益証券(評価額)	171,690,832,102
(B)負 債	346,823,623
未 払 解 約 金	346,820,000
未 払 利 息	3,623
(C)純 資 産 総 額(A - B)	172,667,000,743
元 本	133,893,425,316
次 期 繰 越 損 益 金	38,773,575,427
(D)受 益 権 総 口 数	133,893,425,316口
1万口当たり基準価額(C / D)	12,896円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>
(貸借対照表関係)

期首元本額	85,808,309,791円
期中追加設定元本額	68,528,295,874円
期中一部解約元本額	20,443,180,349円
期末における元本の内訳	
S B I ・ V ・ 全米株式インデックス・ファンド	130,646,944,382円
(ラップ専用) S B I ・ 米国株式	3,246,480,934円

○損益の状況 (2022年7月12日～2023年7月11日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	2,035,409,177円
受 取 配 当 金	2,035,784,376
受 取 利 息	894,376
支 払 利 息	△ 1,269,575
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	22,699,287,578
売 買 益	22,939,568,443
売 買 損	△ 240,280,865
(C)そ の 他 費 用	△ 18,274,826
(D)当 期 損 益 金 (A + B + C)	24,716,421,929
(E)前 期 繰 越 損 益 金	7,750,449,023
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	9,546,144,126
(G)解 約 差 損 益 金	△ 3,239,439,651
(H) 計 (D + E + F + G)	38,773,575,427
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	38,773,575,427

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈ご参考〉組入投資信託証券の概要

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
バンガード・トータル・ ストック・マーケット ETF	米国株式	CRSP USトータル・マーケット・ インデックス	0.03%	The Vanguard Group,Inc.

組入上位10銘柄	比率
Apple Inc.	6.7%
Microsoft Corp.	5.8%
Alphabet Inc.	3.0%
Amazon.com Inc.	2.6%
NVIDIA Corp.	2.3%
Tesla Inc.	1.6%
Meta Platforms Inc.	1.5%
Berkshire Hathaway Inc.	1.4%
UnitedHealth Group Inc.	1.0%
Exxon Mobil Corp.	1.0%

組入上位業種	比率
テクノロジー	29.9%
一般消費財・サービス	14.5%
資本財・サービス	13.0%
ヘルスケア	12.9%
金融	10.2%
生活必需品	5.2%
エネルギー	4.3%
不動産	3.0%
公益事業	2.9%
電気通信サービス	2.1%

出所：The Vanguard Group,Inc.の資料を基にSBIアセットマネジメントが作成

(注) 2023年6月30日時点の比率です。

上記組入投資信託証券は第2期期末時点で取得可能なデータを記載しており、将来変更される場合があります。